



2014(第44回)九州オープン選手権競技

競技報告 (2014/6/12-15)

写真と記事 : M. Kikutake

通算 11 アンダーの 277

北村晃一（ミッションバレー）が初優勝

ベストアマは

増田裕太郎（愛野）が初の栄冠

沖縄県名護市の喜瀬カントリークラブ（7183 ㎡、パー72）で行われ、通算 11 アンダー、277 をマークしたプロ 6 年目、29 歳の北村晃一（ミッションバレー）が初優勝し、優勝賞金 300 万円、特別協賛金 200 万円の計 500 万円を獲得した。

アマチュアの最上位者に贈られるベストアマチュアの称号は通算 3 オーバー、291 の長崎日大高 2 年、増田裕太郎（愛野）が獲得した。

15 日の最終日、競技は激しい雨と雷雲接近、通過のために 2 時間 39 分の中断を挟んで行われた。

北村は首位に 2 打差の 3 位タイでのスタート。前半パープレーだったが、インに入ってからの中断を契機に猛チャージ。後半だけで 5 バディー、1 ボギーで回り、逆転 2 打差をつけて栄冠を手にした。

2 打差の 2 位タイは、3 日目首位タイに並んでいた小田孔明（フリー）と、連覇がかかっていた地元の宮里優作（フリー）の 2 人。さらに 2 打差の 4 位タイは重永亜斗夢（ホームテック）、永野竜太郎（フリー）の 2 人。



沖縄での九州オープン選手権の開催は初めて。賞金総額 1800 万円。(株)えん、金秀グループの特別協賛で行われ、九州在住プロ、九州アマチュア選手権成績上位者、予選競技（マンデー競技）通過者ら 144 人（プロ 104 人、アマ 40 人）が出場して行われた。

初日、2 日目は天候にも恵まれ好コンディションのなかで行われた。そんな中で小田孔が初日 5 アンダー、67 で首位に立ったが、アンダーパーをマークしたのが 19 人と混戦のスタートとなった。2 日目は 64 をマークした北村が、66 の宮里とともに首位タイに並んだ。この日で予選が終わり、通算 4 オーバーの 148、47 位タイまでの 62 人が決勝ラウンドへ進出。

決勝ラウンドに入った 3、4 日目は激しい雨に見舞われ、中断を繰り返した。3 日目は北村が 75 と乱れ、代わって浮上したのが 70 の小田孔で宮里ともにトップに並び、実力者の優勝争いになったかと思われた。しかし、最終日、スコアを伸ばせなかった小田孔、宮里に対し、長い中断を利用して逆転勝利を手繰り寄せたのが北村だった。

アマチュアの争いは最終日、増田が4バーディー、5ボギーの73で回って総合17位タイに入っのベストアマ。4打差で玉城元気（オリオン嵐山）、伊波宏隆（沖縄国際）、玉城海伍（カヌチャ）の3人の地元沖縄勢がセカンドアマになった。

同選手権は今秋の日本オープン選手権（10月16日から、千葉CC）の予選を兼ねているが、九州からの出場枠は8月に入ってから決まる。

（写真は優勝した北村晃一㊤とベストアマの増田裕太郎㊦）



雨中断を味方につけての栄冠

初優勝に破顔の北村晃一



どちらかということでは、プロゴルファーとしての北村晃一より、テレビ番組の「行列のできる法律相談所」で有名な北村晴男弁護士の長男と言った方がわかりやすかった。

その晃一がプロツアーシード勢を向こうに回して優勝争いを演じ、4日間トーナメントを制した。表彰式の優勝スピーチで「とにかくうれしい。日本オープンでは九州覇者の名に恥じないプレーをしてきたい」と述べたが、連盟競技特有の深いラフに加えての雨。悪コンディションの中での2ケタアンダーをマークしての優勝は立派なものだ。

最終日の15日はとにかく我慢の一日だったろう。激しくたたきつける雨。後半に入り11番で3パットでボギーとし、「これで終わったな、と思った」。しかし、続く12番で3mにつけたところで、競技

が中断。雷雲の接近、通過もあり2時間39分もの中断となってしまった。

首位を行く小田孔明らを2打差で追う展開。どう気持ちを立て直していたのか。中断になってからはクラブハウスに引き上げてその小田らと雑談にに応じていたが、いったん切れかかった気持ちが、逆にリラックスしてチャージしていたようだ。「入れることしか考えず攻めた」というように再開後の12番（パー5）でバーディーとし、14番からは3連続バーディーで上を行っていた小田、宮里優作に逆転、2打差をつけてそのまま逃げ切ったのだ。

神奈川県出身。一時は法律家を目指して大学へ進んだが、大学時代にゴルフと出会い、転身した。これまでの成績は北九州オープン（2012年）などローカル大会で2勝しているが、九州在住のプロが欲しがるとあるタイトルをあっさり手にしてしまった。

ホールアウト後、あとから上がってきた小田に握手を求められて照れていたが、「（目標でもあるシード選手の）孔明さんに勝てたのが僕にとっては大きい」。今季は初めてのメジャー、日本プロ選手権にも出場した。このあとは、日本オープンというメジャーが待っている。「北村晴男弁護士の息子、から脱皮するチャンスでもあろう。

（写真はトッパに立つリーダーボードを背にホールアウトした北村晃一）

連覇ならず2位タイの宮里優作（地元での連覇がかかっていたが）プレッシャーはなかった。調子いいし、優勝争いはできるだろうとは思っていたけど…。

4位タイの重永亜斗夢（難病指定されている潰瘍性大腸炎を抱えながらのラウンド。2度目の出場で自身の最高位）最近ショットが良くなくて、日本オープンの出場権が取れれば、と思っていた。体調は相変わらずで薬は欠かせない。何とかごまかしながらやってたけど、良かった。

23位タイの手嶋多一（前週の日本プロ選手権制覇からの2週連続ならず）グリーンが難しかったし、全体的にゴルフが空舞ってしまった。1回は取りたいタイトルだったから…。パッティング調整してやり直しです。

ベストアマの増田裕太郎 今日ショットは良くなかったが、パットが良くて、頑張れた。去年の大会は予選落ちだったから、決勝に残ることだけを考えていた。いい経験ができました。今年は長崎国体があるし、県代表選考会を頑張り、そして九州ジュニアも取りたい。